

研究課題名	「肺機能的画像を用いた肺癌に対する高精度放射線治療計画法の開発」に関する臨床研究
研究責任者名	広島大学医系科学研究科放射線腫瘍学 助教 河原大輔
研究期間	2020年8月04日(倫理委員会承認後)～2023年9月30日
対象者	2010年9月から2014年6月の間に、広島大学病院放射線治療科で放射線治療を受けられた患者さんで、「肺機能的画像を用いた肺癌に対する高精度放射線治療計画法の開発」に関する臨床研究(許可番号 臨-206)に参加された患者さん。
意義・目的	肺癌に対する放射線治療では病気をしっかりと治すことを第一に考えています。放射線治療後に病気は治っていきませんが副作用として肺臓炎が起こる可能性があります。私たちはこれまで副作用である肺臓炎の要因を検討してきました。そこで肺の機能を画像として表示することを実現できました。この研究では機能画像に加え検査、肺臓炎の発生など予後の情報をコンピュータに入れておき、人工知能などで解析、学習することでこれらの情報の結びつきが明らかとなります。これによって今後の治療を行う上で副作用を減らすことができ、安心して放射線治療を受けていただくことが可能になります。
方法	本研究は、全て診療で使用したCT画像、肺血流・換気シンチグラムなどの画像、カルテの情報(年齢、性別、照射歴、治療開始日、治療終了日、血液データ)のみを転記して行います。転記する情報はあらかじめ匿名化処理を行っておき、当院のデータベースに保管、および駒澤大学にもCD-Rによりデータ提供致します。(個人が特定出来る情報は転記しません)
共同研究機関	駒澤大学 藤田幸男 University of California Davis Tokihiro Yamamoto
試料・情報の管理責任者	広島大学医系科学研究科放射線腫瘍学 助教 河原大輔
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
研究の実施について	研究に関しては広島大学理事の許可を得て実施しております。
研究対象者に生じる負担、予測される利益やリスク	新たに検査や治療を受けていただくことはありませんので特に負担はございません。本研究の成果によっては治療効果の改善、不要な検査の削減などが図れます。

情報公開の方法

この研究の成果は、個人が特定できないよう匿名化した上で、学会発表や学術雑誌等で公表されま
す。

研究計画書・研究方法に関する資料の入手・閲覧

ご希望がありましたら下記の問い合わせ先にご連絡ください。

試料・情報の保管及び廃棄方法

取得したデータは匿名化して保管し、研究終了5年後に保存に使用したハードディスク等を処分、
さらにコンピュータ上より情報を削除致します。

研究の資金源、利益相反に関する状況

本研究の資金は本学の運営費交付金となります。利益相反は特にございませぬ。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学大学院医系科学研究科放射線腫瘍学

職名： 助教 氏名： 河原 大輔

連絡先電話番号： 082-257-1545

e-mail： daika99@hiroshima-u.ac.jp

研究機関： 広島大学